

第 2 回技術検討部会における課題と対応

令和7年6月19日

兵庫県

1. 第2回技術検討部会における課題

■第2回技術検討部会における主な指摘・意見の一覧

指摘・意見			内容・対応状況
播磨沿岸	3.1	平均潮位の時系列で異様に値が低い箇所の要因	月平均潮位の欠測月が多く、これを平均して年平均潮位を算定しているため、値が低くなっている。同様の箇所について確認し、年平均潮位を欠測扱いとして平均潮位の時系列を再整理した
	3.1	平均潮位の時系列変化における地殻変動の影響	観測基準面の測量は定期的に行われているため、地殻変動は含まれていると想定されることは、第2回技術検討部会時に回答済み。観測基準面の測量で使用している測量基準点についても確認した結果、定期的の確認、見直しが行われており、地殻変動は含まれていると考えられる
	3.4	海面上昇量算定の表記方法、算定に用いている値の出典	指摘を踏まえて、資料の表記について、わかりにくい部分があるため追記・修正を行った。算定に用いている値の出典がわかりやすくなるように表記を改めた
	5	50年確率波一覧表への水深の追記	一覧表に、沖波推算地点の水深を追記した
大阪湾沿岸	4 5	潮位偏差の再現性を示すグラフ表記の追加	潮位偏差の推算結果を直接使うことの前提として、モデルの再現性が良いことを示す観点から、潮位偏差のグラフにおいて、実測値との比較が出来るよう表記を改めた
	3.2	T1821の再現性（波の立ち上がり部分）の確認	波浪推算の時系列波形について、台風接近による影響で波浪が増大する傾向を確認。波の立ち上がり部分の再現性には技術的な課題があるものの、検討に用いるピーク値の再現性は高いものとして整理を行った
	—	将来気候における台風に関する表記の取り扱い	将来気候において台風が「強力化」もしくは「強化」されることは予測されているが、大きくなるか明確でないことから、「強大化」との記載は「強力化」もしくは「強化」に改めた
	—	潮位偏差についても将来変化比を適用する案について	潮位偏差についても変化比を適用することで、モデルバイアスの影響を抑えることが期待されるものの、現行の潮位条件の設定には既往最高潮位が用いられているものが多いため、変化比の適用が難しいと考えられる。そのため、県内の検潮所で過去最大級の潮位偏差が生じた擾乱を対象に検討を実施した

1. 第2回技術検討部会における課題

■第2回技術検討部会における主な指摘・意見の一覧

指摘・意見			内容・対応状況
但馬沿岸	3.2	高潮推算の再現計算（津居山以外での再現確認）	但馬沿岸では津居山の他に柴山の検潮所があるが、観測開始が2021年8月であるため、再現対象台風時の潮位データは無い。そのため、隣接沿岸の舞鶴や太平洋側の神戸で再現性を確認し、ピーク値の再現がとれていることを確認した
	4.1	計算条件一覧表の中心気圧に将来変化比を追記	計算条件一覧表に、将来気候の中心気圧低下量および将来変化比の値を追記した
	4.2	現在気候の高潮推算結果と現行計画の潮位偏差の比較	高潮推算結果の最大潮位偏差図に現行計画の潮位偏差を追加した
	7	計画高潮位の内訳の追記	計画高潮位の内訳、海面上昇量の設定内訳（既発生量、今後の上昇量）を追記した